陽の里

発行　平成23年8月25日

No.110

社会福祉法人　新生会
総合ケアセンター　サンビレッジ
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地
TEL（0585）45－5545㈹
URL　http://www.shinsei-kai.or.jp/

テーマ　サンビレッジ瑞穂開設にあたって

▶グループホームもやいの家瑞穂へアニマルセラピー「マロン」が訪問

「サンビレッジ瑞穂　開設に寄せて」

もとす広域連合長
瑞穂市長　堀　孝正

サンビレッジ瑞穂の開設、おめでとうございます。

高齢化が進む中にあって、平成十一年六月一日に旧本巣郡七町村（現在、瑞穂市、本巣市、北方町）は、介護保険事業について、町村枠を超えて広域的に取り組むため、「もとす介護保険広域連合」としてスタートしました。

しかし、南北に長い当管内は、地域により生活環境や介護サービス基盤の整備状況が異なるなど、地域環境が介護サービス利用の地域間格差が生じていることは否めません。このような中、管内に生活する全ての対象者の方が介護サービスを利用できる環境を実現する必要があります。

高齢者の方が住み慣れた地域で二四時間、三六五日、安心して暮らせる社会を築くための地域包括ケアシステムの構築が現実的課題とされる今日、新生会　総合ケアセンター　サンビレッジが、管内の瑞穂市において、認知症対応型グループホーム「もやいの家瑞穂」及び特別養護老人ホーム「サンビレッジ瑞穂」を開苑されたことは、時機を得たもので、大変喜ばしく、高齢者の方にとって大きな支援となるものと確信いたします。

引き続き、新生会が当連合介護保険事業計画の基本目標であります「いつまでも自分らしく生きられる長寿社会をめざして」の地域づくりの拠点として発展されることを願ってやみません。

「サンビレッジ瑞穂開設にあたって」

社会福祉法人 新生会
理事長 今村 寧

梅雨も明け、昨年とはまた一味違う夏場がやってまいりました。世の中はなでしこジャパンがワールドカップで優勝し、東日本大震災の被災者の方だけではなく日本全体を元気にしてくれました。

新生会においても、揖斐郡池田町から大垣・岐阜へと展開し、4月からはグループホームとデイサービスセンターを持つ「もやいの家　瑞穂」、そしていよいよ80床の特別養護老人ホームを抱える「サンビレッジ瑞穂」が9月1日に開設となります。これで池田町から岐阜まで、西濃圏域を面でサポートできる基盤が出来上がることになります。新生会では訪問介護サービスは提供しておりませんが、同朋グループである新生メディカルがその基盤を持っており、ともに協働することで新生会が目指してきた「施設と在宅の一元化」を池田町のみではなく、西濃から岐阜まで利用して頂けるようになりました。

私たちが共有する理念は、「他人の痛みを自分のこととして感ずる感性と、人が等しく生きてゆくことの福祉観を基本として」としています。他人の痛みとは、主に利用者のことですが、これは自分以外のすべての人を指す言葉です。つまりは同じ職場で働く仲間であったり、連携を取り合う他事業所の職員であったり、近所の人や家族も含まれています。さらに他人を大切にすることは自分も大切にすることにつながります。他人があって自分がある。そのどちらもバランスよく大切にすることが肝要と思います。

たった一つの「他人」という言葉ではありますが、切り口が変わればとらえ方が違ってきます。新生グループの組織力で地域住民の生活を面で支えることができるということは、それだけ多くの切り口で多様性に富んだ支え方ができることと同等であります。さらに、この多様性をより密にすることで、網の目が細かくなるが如く多くの方々の生活を柔らかく支えることができるようになります。

世の中は大きく変動していますが、幸せの基本は生活にあります。その生活の基礎の部分を多くの知恵で支えていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

▲子ども達が折り紙作りボランティアで来苑

尊厳ある生活を支える「短時間巡回訪問介護サービス・岐阜県方式」

㈱新生メディカル　瑞穂営業所所長　安田正子

㈱新生メディカル瑞穂営業所では、平成22年に岐阜県から委託を受け「短時間巡回訪問介護サービス・岐阜県方式」をスタートしました。

人は誰でも、高齢になっても、障がいをもっても人が営むあたり前の行為を願うのではないでしょうか？　例えば、朝起きたらトイレに行き、洗面をして着替えをして朝食を食べて…、このあたり前の生活リズムを支えるのが、短時間巡回訪問介護サービスです。1日の生活リズムに合わせて必要な時に必要なケアを毎日複数回継続して利用できるサービスです。必要なケアを必要なときに利用でき、要介護者のニーズに施設で暮らす様にきめ細かく対応ができます。

実際に短時間巡回訪問介護サービスを利用されたご利用者の紹介です。

◎日昼独居のAさんは、家族のいない昼間に3回ヘルパーがトイレの介助に入ることで水分を控えることなく、膀胱炎を繰り返さなくなり家族も安心されています。

◎Bさんは、92歳という高齢に伴い、日に日に介護が必要になり、1日6回毎日のケアにヘルパーが入り、2ヵ月後大好きな自宅で家族に見守られながら亡くなられました。家族は最期まで自宅で悔いなく介護ができたとおっしゃられました。

◎Cさんは、高齢者夫婦の世帯。ある日Cさんが骨折され介護者の奥さんは腰痛があり介護ができません。施設入所も検討されましたが、1日6回毎日、オムツ交換と体位変換に入り2ヵ月後にはデイにも行けるようになりました。

瑞穂事業紹介

サンビレッジ瑞穂

特別養護老人ホーム
（アセスメント・ターミナルを含む）

ショートステイ・在宅入所相互利用

デイサービス

訪問看護ステーション

サンビレッジ居宅支援事業

配食サービス（一般の方も利用できます）

【連携事業者】

新生メディカル　訪問介護
（24時間巡回介護出来ます）

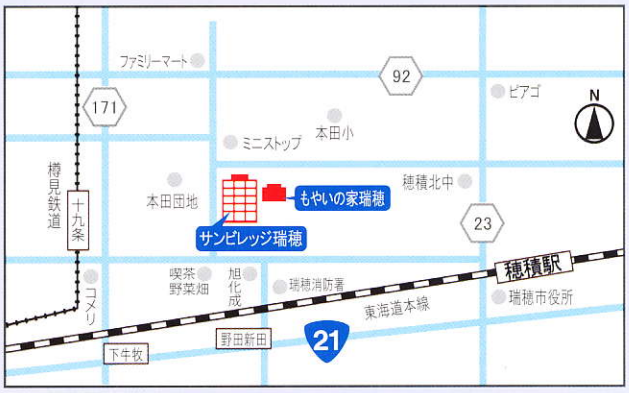
新生メディカル　居宅支援事業

もやいの家　瑞穂

グループホーム

デイサービス（認知庄対応型）

地域交流センター



ご相談窓口

営業時間　8時30分～5時30分
曜　　日　月曜日～金曜日
（上記以外でもお気軽にご相談ください）

相談対応者

生活相談員
松井康成

サンビレッジ瑞穂　瑞穂市只越219　TEL 058-322-5200

もやいの家　瑞穂　瑞穂市本田2050-1　TEL 058-322-5220

トピックス

休日は憩いのひとときを！
～サンビレッジフーズ・憩いの家からのご案内～

休日ランチメニュー（例）600円
天むす・おろしそば等

夏の彩り膳（例）1000円
土用うし・うなぎ定食

サンビレッジ新生苑・喫茶いこいの家をご存知ですか？いこいの家は、喫茶店としてだけではなく、普段から地域の皆様にお気軽にお食事を楽しんで頂ける場として、様々なメニューを企画しています。

今年度は、「休日の特別ランチメニュー」として、調理人それぞれがアイディアを出して季節の素材を取り込み腕をふるって料理する土日限定（11時～13時頃まで）のオリジナルのメニューや、サンビレッジフーズを通じた配食サービスの「季節の彩り膳」等にも力を入れ、ご注文も定期的に承っています。

今後は昨年ご好評を頂いた「敬老の日お祝いメニュー」の第２弾も予定しています。随時ご案内させて頂きますので、ご期待下さい！

【お問い合わせ】
サンビレッジフーズ　TEL0584－77－0583

被災地チャリティーコンサート開催！
～ストリングカルテット響と共に送る、東日本大震災　復興支援への取り組み～

ストリングカルテット響の方々（前列）と新生会職員

7月24日、当法人と懇意にしている岩手県宮古市にて「ストリングカルテット響（ひびき）」による被災地チャリティーコンサートが開催され、弦楽四重奏の美しいハーモニーを、応援に駆けつけた新生会の職員も含めた大勢の方々が観賞されました。

以前より新生会では、宮城県石巻市等の被災地に住む高齢者に訪問入浴・介護支援・短時間訪問サービスを提供させて頂いています。

今後は、宮古市に住む介護職やリハビリ職を希望する学生の受け入れも予定しており、サンビレッジ国際医療福祉専門学校で福祉の資格を取得し、地元に帰られた後に将来の福祉を共に担っていく仲間を応援させて頂いています。

燃えよケン!!
～サンビ特派員 兼太郎がゆく～

「私のヨーヨー・マ」出版のご案内

この本は、現代音楽界で世界最高峰のチェロ奏者であるヨーヨー・マ氏と出会い、その人柄を理解するにつけ、彼が私のライフワークとしている「福祉とは」「ケアの専門性とは」どのようなものかという問いへの指標を示してくれているように感じ、それを福祉分野で働いている人々に、「世界のヨーヨー・マと私たちの仕事の本質は変わらないのではないか」とエールを送りたいと思い制作しました。

私の想像するヨーヨー・マ像を文章化しながら、福祉という人を等しく捉える概念や、それを実現するための、利用者の生活を支える質の高いチーム作りにも触れています。

本書を通して、音楽と福祉のコラボレーションを楽しんで頂けたら、それに勝る幸せはありません。是非ご覧下さい。

石原　美智子

「私のヨーヨー・マ」　石原　美智子 著　定価 1,500 円
サンビレッジ新生苑　事務所にて販売中
この本の売り上げは全て東日本大震災被災地
岩手県宮古市に寄付されます

寝たきりゼロ作戦！
～起きる意欲、起こす技術を広めよう～

7月22日、新生会では「リフトと腰痛予防について」と題した職員勉強会を実施し、大勢の職員が参加しました。

以前より新生苑では、介助方法の見直し、各種福祉用具の導入の検討、地域に向けた介護に関する情報発信を積極的に行っています。

今回は、以前に当機関紙108号で実施した、介護負担に関するアンケート結果等を受けて、介護負担のある利用者やその場面・介助方法を挙げ、それが正しい介助方法を行ったり移乗用の福祉機器を導入することにより、どのように改善されるのか、又それが寝たきりの方の起きる意欲や介護者の起こす技術にどのように繋げられるかを話し合いました。

これらの取り組みは、昨年好評を頂いた「サンビレッジ福祉フェア」（10月14・15日に予定）でも報告させて頂きます。ご期待下さい。